

近畿中部



近畿中部防衛局管内図
青色部分（東海支局管内）
2府7県の防衛に関する情報誌



近中くん

「近中くん」

近畿中部防衛局のマスコットキャラクター

生年月日：平成19年9月1日（防災の日）

出身：近畿中部地方

名前：近中くん（きんちゅうくん）

職業：徳し業

宝物：手作りのまが玉札

趣味：野球観戦（タイガース、ドラゴンズ、
オリックス）

特技：たこ焼き、きしめんの早食い

近畿中部防衛局広報誌

2016

5/6月号



能美市防災センター

目次

平成28年熊本地震災害派遣～関西各部隊支援に全力	2～3
能美市防災センター完成～防災拠点施設の運用を開始	4
能美市立大成保育園完成	
経ヶ岬通信所に関する動き	5
自治体めぐり～石川県小松市	6
近畿中部防衛局からのお知らせ	7
なるほど防衛豆知識「自衛隊災害派遣制度（災害派遣のしくみ）」	8

平成28年熊本地震災害派遣～関西各部隊支援に全力

平成28年4月14日午後9時26分頃、熊本地方を震源とするマグニチュード6.5の地震が発生、16日午前1時25分頃に再び熊本地方を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、熊本地方に甚大な被害をもたらされました。防衛省は、陸上自衛隊西部方面総監を指揮官とする陸海空の統合任務部隊を編成。

これにより、関西から陸上自衛隊第3師団隷下部隊の人員約1200名を中心に第4施設団約230名、海上自衛隊舞鶴地方隊から約100名が熊本市、南阿蘇村、西原村などで行方不明者の捜索・救助、医療・生活支援、物資輸送等を実施しました。



野外入浴セットを搭載し千僧駐屯地を出発



行方不明者の捜索活動



行方不明者の捜索活動



土砂災害の状況を確認



土砂が堆積した河川を浚渫



医療（巡回診療）支援



給食（炊き出し）支援



給水支援



入浴天幕展開



入浴支援（女性自衛官との会話が少しは和らいだかな？）



（写真提供：陸上自衛隊 3 師団広報、陸上自衛隊第 4 施設団司令業務室、海上自衛隊舞鶴総監部広報）

4 月 14 日の発災以降、自衛隊は統合任務部隊を編成し、全国から最大 2 万 6 千名を派遣。その間、行方不明者の搜索救助や被災者の生活支援などを行ってきました。関西の派遣部隊の隊員も 5 月 9 日の統合任務部隊編成解除までの間、現場においてできる限り被災者に寄り添った支援活動を行ってきました。

（5 月 30 日 熊本地震災害派遣活動終了）

能美市防災センター完成～防災拠点施設の運用を開始

能美市防災センターの竣工式が、平成28年5月26日、同センターにおいて華やかに行われ、酒井市長をはじめとする多くの関係者が出席し、完成を祝いました。

能美市では、航空機事故及び騒音等に対して不安を抱えた住民の皆様が、安全で安心な生活ができる環境づくりや災害に強いまちづくりを推進する一環として施設の建設を計画され、小松飛行場周辺民生安定施設助成事業として整備し、平成28年5月に完成しました。

同センターは、地域防災活動としての拠点及び災害時の救援物資集配の拠点機能を併せ持ち、また、防災意識の高揚を図るための災害疑似体験施設（消火訓練、煙避難、地震体験、強風体験、救急体験等）も備えた施設（鉄筋コンクリート造6階建て、延べ床面積5,721.96㎡）です。



竣工式で祝辞を述べる酒井能美市長



消防隊員による訓練状況



地震を体験している様子（地震体験装置）

能美市立大成保育園 完成

能美市立大成保育園の竣工式が、平成28年4月27日、大成町内の同保育園で行われ、酒井市長や多くの関係者が出席し、完成を祝いました。

能美市では、市内保育園児の減少と市政向上から保育園統廃合計画が平成19年に決定し、新たな統合保育園として大成保育園の建設が計画され、平成28年3月に完成しました。

同保育園は、航空自衛隊小松基地を離着陸する自衛隊機等の航空機騒音への対策として、サッシ、天井、壁等を防音仕様とした鉄筋コンクリート造平屋建て延べ床面積約1,400㎡の施設で、教育施設等騒音防止対策事業（一般防音）として整備したものです。同保育園が所在する地域は、周辺に文化会館や図書館、プラネタリウムを要した学習センターが集まる文教ゾーンであり、その中であって同保育園は、豊かな情操教育が育まれる保育園として期待されています。



外観表(玄関)



外観裏(園庭)



玄関廻り



乳児室



保育室



遊戯室

米軍経ヶ岬通信所に関する動き

第7回交通安全講習会を開催

近畿中部防衛局と京丹後警察署は、平成28年4月7日、京丹後市網野町の網野自動車教習所に御協力いただき、米軍経ヶ岬通信所に勤務する米軍関係者を対象とした交通安全講習会を開催しました。

座学講習では、京丹後警察署から交通事故の発生状況や交通違反の防止について説明を受けました。実車講習では、道幅の狭い路地など周辺の公道を走行し、指導員から道路状況に即した運転のアドバイスを受け、また、狭いコースでの切り返し訓練等の課題走行も受講しました。参加した米軍関係者約30名は、各講習に熱心に取り組み、参加者の交通安全意識向上に資する講習会となりました。近畿中部防衛局は、地域の安全・安心のため、今後とも交通事故防止へ向けた取り組みを続けて参ります。



座学講習（京丹後署からの説明）



車両に乗り込む受講者



実車講習（公道での走行の様子）



切り返し訓練の様子

在日米陸軍軍楽隊によるコンサートの開催

平成28年4月19日及び20日に京丹後市内で在日米陸軍軍楽隊によるコンサートが開催されました。演奏会場であるショッピングセンターマインや宇川アクティブハウス、袖志農民研修所には地元の方々を含め多くの方が演奏を聴きにいらっしゃいました。

在日米陸軍軍楽隊は「スタンド・バイ・ミー」といった日本でも有名な米国の曲を演奏するとともに、「上を向いて歩こう」など日本の曲も交えることにより会場を盛り上げました。

また、同軍楽隊は市内の幼稚園数カ所を訪問し、子どもたちに演奏を披露したところ、子どもたちからは御礼として歌のプレゼントが贈られました。これからも、日米の人と人とのつながりが深まるよう、近畿中部防衛局としても在日米軍の交流事業を支援してまいります。



演奏を聴きに來られた地元の皆様と（袖志農民研修所にて）



かぶと山幼稚園での演奏の様子



ゆうかりこども園での演奏の様子

自治体めぐり～石川県小松市

小松市は東に霊峰白山を望み、西は日本海に面した人口約 11 万人の南加賀の中核を担っています。

歌舞伎十八番のうち「勸進帳」の舞台となった「安宅の関」があることから、「歌舞伎のまち」として広く知られ、5 月の「お旅まつり」では、曳山を舞台に子供歌舞伎が上演されています。

今年で 250 年目を迎えたお旅まつりの曳山子供歌舞伎は、5 月 13 日から 15 日まで行われ、子供役者の迫真の演技に多くの観衆が魅了されました。



曳山八基揃え（ライトアップ）



曳山の上で子供歌舞伎が上演



日本遺産認定

平成 28 年度の日本遺産に、「珠玉と歩む物語」小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～として認定されました。

※小松の人々は弥生時代の碧玉の玉作りを始まりとして 2300 年にわたり、人・モノ・技術が交流する豊かな石の文化を築きあげてきました。



石工や九谷焼の伝統の技が世代から世代に受け継がれています。



日華石を使用した東酒造の石蔵（国登録文化財）

小松の石は生活や文化の様々な場面で生きています。

小松城本丸やぐら台石垣（市指定文化財）



先人の切石加工や築城技術が引き継がれています。

観音下石切り場



数々の名建築に使われた銘石材が産出されています。

（写真提供：小松市）

近畿中部防衛局からのお知らせ

FMマザーシップ「防衛問答近中でごさる」

近畿中部防衛局では、和歌山県湯浅町の F M マザーシップ「防衛問答近中でごさる」に近畿中部防衛局長ほか幹部の方々が出演し、防衛局の業務紹介をメインに防衛省全般、陸海空自衛隊及び米軍関連の行事等の紹介を行い、防衛局と自衛隊、米軍及び自治体等の関わりについてわかりやすく解説しています。

【構成】

(第 1 部) 防衛局の業務紹介

(第 2 部) 防衛省、自衛隊及び米軍等の紹介

(第 3 部) トピック的事項の紹介

※各部の間に陸海空及び米軍音楽隊の演奏を挿入



※近畿中部防衛局ホームページで過去に放送した内容を聞くことができます。

平成28年度近畿中部防衛局初任研修

平成 28 年 5 月 10 日から同月 12 日の 3 日間の日程で、平成 28 年 4 月 1 日付新規採用者 11 名（近畿中部防衛局 5 名、東海防衛支局 6 名）に対する初任研修を実施しました。

本研修は、近畿中部防衛局の職員として必要な基礎的知識の付与を目的とし、現地研修（艦艇及び航空機見学）のほか、近畿中部防衛局各部の業務内容や陸海空自衛隊の概要などの教育を行いました。研修員からは、「同期たちと切磋琢磨し合い頑張っていこうという気持ちが強くなった」、「自分が所属している部署以外の所ではどのような仕事をしているのかという事を学べた」、「装備品の日本の技術力の高さに感銘をうけた」、「より一層頑張ろうという気持ちになった」などの感想があり、新規採用者にとって有意義な研修となりました。



総務部長と 28 年度新規採用者 11 名



なるほど防衛豆知識

自衛隊災害派遣制度（災害派遣の仕組み）

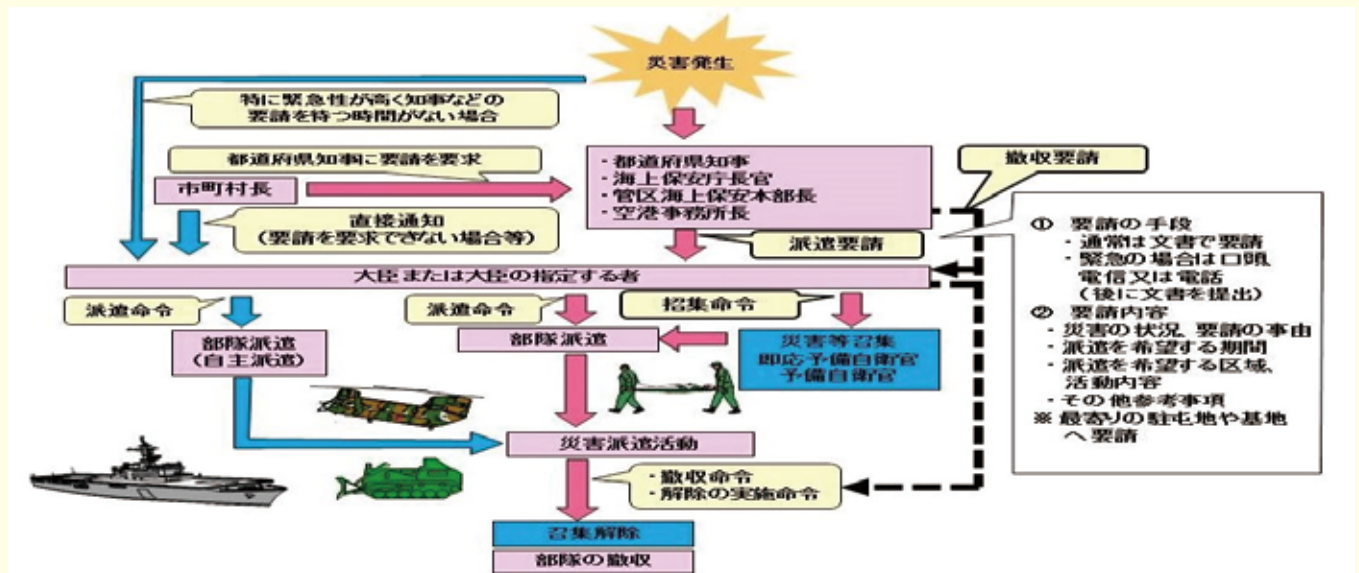
1 質問

自衛隊災害派遣制度について

2 回答

災害派遣は、都道府県知事、海上保安庁長官、管区海上保安本部長及び空港事務所長の要請により防衛大臣又は大臣の指定するものから災害派遣命令が出され、自衛隊の部隊等が派遣されることとなっています。また要請がなくても、緊急に人命救助が必要な場合で都道府県知事等と連絡が取れない場合や災害発生時に関係機関への情報提供を行う場合など一定の要件を満たす場合には要請なしで部隊が派遣されることがあり、このような場合は「自主派遣」と呼ばれます。

4月の熊本地震においては、4月14日(木)2240、熊本県知事から北熊本駐屯地に所在する第8師団長に災害派遣要請があり、行方不明者の搜索救助をはじめ、物資輸送、給食、給水、入浴、医療などの生活支援を実施しました。この間、162人の即応予備自衛官の招集も行われ、最終的には陸海空の隊員延べ約81万4千人が従事し、航空機延べ約2,600機、艦艇延べ約300隻が投入され、5月30日(月)0900、熊本県知事から第8師団長への撤収要請を受け、約1か月半に及ぶ活動を終えました。



■ ご意見・ご感想等募集 ■

近畿中部防衛局では、今後も防衛省・自衛隊の様々な活動などを皆様にお知らせしていきたいと考えております。

本誌に対する皆様のご意見・ご感想などがありましたら、何でも結構です。お聞かせ下さい。皆様方のご意見を参考にさせていただき、より良い誌面作りを目指していきたいと思っております。

(住所)

〒540-0008

大阪市中央区大手前4丁目1-67

近畿中部防衛局

広報編集委員会（報道官気付）

(電話・FAX)

TEL 06-6945-4953

FAX 06-6910-5669

(メールアドレス)

goiken@kinchu.rdb.mod.go.jp

近畿中部防衛局広報誌「**近畿中部**」は、近畿2府4県及び北陸3県所在の自治体、大学図書館及び公立図書館などに無料で配布しています。ご希望があれば、他の機関へもお届けしますので、お気軽にご連絡ください。

近畿中部防衛局では、防衛省の地方拠点としての役割を果たすため、国民の皆様から防衛行政全般にわたる緊急の連絡、情報提供に対応できる体制を確保しております。

夜間及び休日の緊急連絡先
TEL・FAX 06-6945-5381

KINKI CHUBU

2016年5/6月号（通算第42号）

平成28年6月発行

近畿中部防衛局
広報編集委員会

TEL 06-6945-4953

URL <http://www.mod.go.jp/rdb/kinchu/>

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。